

キンダーブック1 2月号

表紙の
絵から

表紙の水玉模様のあざらしはお母さん、裏表紙の白いあざらしは生まれたばかりの赤ちゃんです。ほかにもキタキツネ、シャチ、オオワシ、ヒグマなど、さまざまな北国の生き物たちがいます。知っている生き物はいるか、話してみましょう。



やさしくできるよ

ねらい 小さい子との関わりをとおして、お兄さん、お姉さんとしての自覚をもてるようにします。



「泣いている子がいるね」と注目し、「みんなだったらどうする?」と尋ねてみましょう。うさまるくんとみーこちゃんが気づいていることを伝え、「ふたりはどうするかな?」と問い合わせましょう。

泣いているふうくんの気持ちをみんなで考えてみましょう。うさまるくんが「トンネルをいっしょに作ろう」と言って、ふうくんの気持ちを考えて行動したことを伝えましょう。



「うさまるくんたち、小さな子にやさしくできたね。みんなもできるかな?」と問い合わせると、自ら行動しようとする気持ちにつながるでしょう。小さい子との関わり方をいっしょに考えましょう。



とりが いっぱい



ねらい

いろいろな鳥の種類や生態に関心をもたせます。

つかいの
ヒント

冬にやってくる渡り鳥や、冬羽が特徴的な鳥を紹介しています。戸外で鳥を見つけたら「この鳥は大きいね、何色かな? どんなところに棲んでいると思う?」などと問い合わせ、具体的な特徴に気づけるよう促しましょう。



きたかぜ かんちゃん

ねらい

寒い日でも外で遊ぶことの楽しさを伝え、雪や雪遊びに興味をもたせます。

つかいの
ヒント

「みんなは寒くてもお外で遊んでいるかな?」「雪を見たことあるかな?」「どんな雪遊びがあるかな?」と問い合わせ、子どもたちが自分の経験を話せるようにしましょう。雪遊びの楽しさや季節の自然のようすに関心がもてるといいですね。

「キンダーブック1」を
保育にご活用ください!

絵本をつかった指導計画の文例

コーナー



「やさしくできるよ」

子どもが経験すること

- 年下の子にどんなことばをかけられたらよいかを想像する。
- 年下の子とどんな遊びをしたいか考える。
- 実際に年下の子といっしょに遊ぶ。
- 自分が進級した姿を想像する。

保育者の配慮

- 小さい子と遊ぶときには、どんなことに気をつけたらよいか、どんな遊びならできそうかをいっしょに考える。
- 「お兄さん、お姉さんからやさしくしてもらったことはある?」などと問い合わせ、経験やそのときの気持ちを思い出しことにできるようにする。また、同じようにできるかを考えさせる。
- 進級したらどんなふうになりたいか、何をしたいかなど尋ね、いろいろなことに挑戦する気持ちをもてるよう見守る。

5領域

人間関係
言葉



「とりが いっぱい」

- 季節や場所によって野鳥の種類が違うことを知る。
- 野鳥の種類や生態を知り、興味を深める。
- 実際に戸外で野鳥を探す。

- 図鑑、絵本などを見せながら、鳥の種類や季節による違いについて伝える。
- 「あの鳥は羽を広げるとこれくらいだって。何と同じくらいかな?」「虫が好きなんだって。どの虫を食べるのかな?」などと問い合わせ、子ども自身に具体的に考えさせ、ことばで表現できるようにする。
- 園庭などで実際に鳥の観察をして、気づいたことについて話し合う。「○○がいるね」「この鳥は冬はいるけど夏はいないね。どうしてかな?」などと問い合わせ、興味をもたせる。

環境
言葉